参考　講義骨子（パワーポイント）

１．はじめに

・研修の目的・構成

・講義の目的・構成

２．学術情報リテラシー（教育）の意義と動向

・情報リテラシー（概念）の変遷

70 年代：　ビジネス能力	90 年代：「教育」に焦点
80 年代：　日常生活全般	00 年代：　デジタルデバイドの解消

・情報リテラシーの今日的な理解

情報を主体的に使いこなす能力	スキル（技能）の側面が強調
定義（中身）は分野や文脈に依存	類縁概念との区別は曖昧
一種のスローガンとして機能	「図書館リテラシー」も（重要な）要素

・最近の研究動向（例）

レビュー研究（国内）の登場	実践に基づく報告・考察
大規模な実態調査の実施・公開	理論的・歴史的な分析・検討

・最近の実践動向（例）

導入教育（初年次教育）	教材・ツール作成：テキスト、パスファインダ、ウェブ、...
出張（出前）講座	

・最近の政策動向（例）

ＩＴ基本法	学術審議会建議、科学技術・学術審議会報告など

３．大学図書館の利用者教育と学術情報リテラシー教育

・情報リテラシー教育のなかの利用者教育

「図書館」「資料」→「情報」

「探索・収集」＋「整理・分析」「表現・発信」

「図書館（員）」＋「図書館以外（授業・教員など）」

・「利用者教育」から「指導サービス」へ

図書館の「内部」から「外部」の文脈へ（体系的な情報リテラシー教育）

「逐次的」「個別的」「単発的」→「体系的」「計画的」「組織的」

これまでの活動の再構築・体系化

４．大学図書館による指導サービスの展開（その１）

・企画・実施にあたって①（Why, What）：　指導サービスの目的・目標

目的（意義）：　必要性・有効性

目標（内容）：　利用者像（～ができる）

「図書館ならでは」「だからこそ」

・企画・実施にあたって②（How）： 指導サービスの方法（手法）

直接（対面）／間接（遠隔）　　集団／個別（個人）

同期・非同期　　ツール（メディア）の活用

・企画・実施にあたって③（Who, When, Where）④： 指導サービスの手順など

指導の順序（段階）→カリキュラム（プログラム）

授業との関連： 関連なし／学科関連指導／学科統合指導／独立学科目

・「指導サービス」の指針など

米国： ACRL の指針・基準など

日本： JLA の指針など

「たたき台」や「拠りどころ」として

５．大学図書館による指導サービスの展開（その２）

・企画・実施にあたって（(To) Whom）： 指導サービスの対象

利用者層の把握・分析

プロフィルの作成、...

・「情報」利用者の変化と図書館

インターネットなどの普及

情報探索・利用行動の多様化（ ブラウジング、チェイニング、モニタリングなど）

図書館の位置づけの変化（「新しい」役割）

６．おわりに

・さまざまな課題： 「共有」の重要性

・大学コミュニティにおける位置づけ（ライブラリアイデンティティ）

・図書館員の役割（専門性）

付．高校までの「情報教育」の現状（教科「情報」を中心に）

・学校教育における情報教育

情報活用能力の育成： 生きる力（課題解決能力）として

情報活用能力の要素（焦点）： 情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度

教育環境の整備：「e-Japan 戦略」「ＩＴ新改革戦略」など

・「情報教育」の体系化のイメージ（資料Ｂ）

・普通教科「情報」の概要

目標： 情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成

構成：「情報 A」「情報 B」「情報 C」から１科目以上必修

特徴：「問題解決」が基礎、文理融合型、実習（技能）重視、…

＊ のずえ・としひこ　青山学院大学文学部教育学科准教授　E-mail: tnozue@CL.aoyama.ac.jp　Fax: 03-3409-1528